

**「高校生のための学びの基礎診断」認定された測定ツール
(基本情報)**

事業者名	株式会社ベネッセコーポレーション					
測定ツール名	進路マップ 実力診断テスト					
主な対象者	四年制大学・短期大学・専門学校を含む各種の学校への進学から就職まで幅広い進路を目指す高校1年生・2年生・3年生向け					
対象教科	国語	数学	英語	⑤測定内容の区分	基本タイプ	標準タイプ
	○	○	○			○
測定ツールの目的・概要	<p>【目的】 高校履修範囲を中心（1年6月回は義務教育範囲含む）に基礎学力の定着度・学習習慣の状況を定期的に測定することで、学校としての指導改善、生徒の学習改善・基礎学力向上・学習意欲の向上に役立ててもらうことを目的。</p> <p>【概要】 ・「記述式」問題により、義務教育範囲から高校履修範囲までの基礎学力の定着度をそれぞれの学校の進度に合わせて（回ごとの進度対応）、より客観的に測定することができる。回ごとに生徒用事前教材が準備されているので、生徒一人ひとりが意欲的に事前学習に取り組める仕組みになっている。 ・生徒個人向けに、基礎学力の到達状況を全体としての学力測定指標「学習到達ゾーン(GTZ)」や「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」別の結果として提供すると共に、学習アドバイスを提供することで、受検結果を次の学習改善につなげる。 ・学校へは学年集団の特性がわかる概況データ及びクラス担任・教科担任先生用に学習状況を踏まえた情報を提供することで、指導改善や生徒への声かけの材料として活用できる。 ・1年生から3年生まで各学年3回構成となっており、選択問題も含むため、学校の進度により合った実施が可能。国語・数学・英語の教科問題50分間×3教科に加えて、英語スピーキングテスト問題25分間または学校採点の英語スピーキング問題5分間、アンケート30分間の構成。</p>					
測定ツールの特長・活用例等	<p>【特長】 ・診断結果は「知識・技能」と「思考力・判断力・表現力」の観点で評価し、テストと合わせて学習力（教科学習面・生活面・進路面）に関するアンケートがあり、学力と学習力（学習状況）の両面から、生徒向けにアドバイスコメントを返却。 ・結果を振り返る中で「振り返り問題」を提示し、事後の学習行動を具体的にアドバイス。</p> <p>【活用例】 1年6月に実施し、入学後1学期段階での「基礎学力」と「学習力」の初期把握を行い、その結果を学年の指導計画に反映。また、個人票を元にしたクラス担任先生の個別面談により生徒一人ひとりの状況把握ができる。1年9月に2回めを、1年1月に3回めを受検することで、4月からの学力の推移と学習力の変容を定期的に測定・把握し、指導改善のPDCAサイクルを回し、次学年の指導計画立案につなげる。</p>					
実施期間、年間実施回数	【実施期間】実施時期は、1年6月・1年10月・1年1月、2年6月・2年10月・2年1月、3年4月、3年6月・3年9月の計9回。3年4月より「理科」「地歴・公民」「基礎・活用」が付く					
実施方式（CBT/PBT）	PBT					
試験時間(分)	国語		数学		英語	
	各学年回 記述式問題：50分		各学年回 記述式問題：50分		各学年回 記述式問題：50分（リスニング・リーディング・ライティング） スピーキングテスト問題：25分 または 学校採点のスピーキング問題：5分	
受検料	1年6月～2年6月まで：学校採点の英語スピーキング問題の場合：1,750円、英語スピーキングテスト問題の場合：2,550円 2年10月以降：学校採点の英語スピーキング問題の場合：1,860円、英語スピーキングテスト問題の場合：2,660円 ※すべて消費税等込 ※3年4月より「理科」「地歴・公民」「基礎・活用」の科目が増えるが、受検料は「2年10月以降」と同じ金額。 ※英語スピーキング問題について、2019年度3年生対象回は学校採点のみの対応となる。					
標準返却期間	答案到着後約4週間。					
URL(事業者のHPにおける測定ツール紹介)	https://bhs0.benesse.ne.jp/ ※教員専用URL					

指摘事項	出題に関すること	5	件
	結果提供に関すること	3	件
	運営その他に関すること	2	件